

2025/06/22

説教題：「聞くだけの者ではなく、神の御言葉を行う者になりなさい」

聖書朗読: ヤコブの手紙 1:17-27

¹⁷すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。¹⁸父はみこころのままに、真理のことばをもって私たちをお生みになりました。私たちを、いわば被造物の初穂にするためなのです。¹⁹愛する兄弟たち。あなたがたはそのことを知っているのです。しかし、だれでも、聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい。²⁰人の怒りは、神の義を実現するものではありません。²¹ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。²²また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。²³みことばを聞いても行なわない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で見る人のようです。²⁴自分をながめてから立ち去ると、すぐにそれがどのようなものであったかを忘れてしまいます。²⁵ところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行ないによって祝福されます。²⁶自分は宗教に熱心であると思っても、自分の舌にくつわをかけず、自分の心を欺いているなら、そのような人の宗教はむなししいものです。²⁷父なる神の御前でよく汚れのない宗教は、孤児や、やもめたちが困っているときに世話をし、この世から自分をきよく守ることです。

皆さん、おはようございます。また皆さんにお会いできてうれしいです。2週間前、新約聖書の中で、私の好きな書物であるヤコブの手紙を通しての連続説教を始めました。ヤコブの手紙は、真のクリスチャンの弟子たちがどのような人生を送るべきかという実践的な側面に焦点を当てているため、多くの人々がこの本を愛しているとお話ししました。最初の説教では、1章1節から18節までを見て、いくつかの教訓を学びました。第一に、人生における試練は避けられないものであり、それは信仰を試すものであるということ。それは良いことであり、私たちはそのプロセスを歓迎すべきです。なぜなら、これらの試練は私たちの信仰の純粋さを試し、私たちをクリスチャンとして成熟させるからです。第二に、私たちは試練の中にあっても、神に知恵を求めて祈ることができることを学びました。そして私たちが疑うことなく信仰をもって求める限り、主は私たちにこれを与えてくださいます。疑念は信仰を損ないます。ですから、私たちは自信を持って尋ねなければなりません。神は私たちの祈りを聞きたいと願っておられる神であり、ご自分の子供たちに答えたいと願っておられるのです。第三に、私たちは、貧しい境遇にあるクリスチャンは、この世の創造主の養子として高い地位にあることを誇りとし、裕福な境遇のクリスチャンは、低い地位にあることを誇りとすべきであり、自分たちはいつか過ぎ去るただの人間であり、この地上でより多くの財や名声を得ようとしてはならないことを思い知らされることを学びました。第四に、誘惑、罪、死のプロセスについて学びました。最後に16節から18節を引用し、罪の欺瞞性を思い起こさせる16節を強調しました。17節と18節は、すべての良い賜物は神から来ることを思い出させます。罪は欺くものであり、喜びを約束しますが、結局のところ、罪はまったく良いものではありません。すべての良いものは神からきます。今日の説教は17-18節から始めます。

以下が、今日の私の説教のアウトラインです：

1. 良い贈り物と完全な贈物
2. QSS (Quick-Slow-Slow) (これは何のことか分かりますか？クイック・スロー・スロー？皆さんの想像におまかせします。答えは後ほど。)
3. 謙遜である時、御言葉を受け取る
4. 御言葉を実行する者となる
5. 無価値な宗教と純粋な宗教

パート 1: 良い贈り物と完全な贈物 (ヤコブ 1:17-18).

誘惑や罪の欺瞞に満ちた約束とは対照的に、神は良い賜物を私たちに与えてくださいます。すなわち、神はすべての良い賜物の源なのです。このことは、私たちが罪深い習慣に陥ることなく、神に忠実に従う動機となるはずです。ある注解書によれば、神に従う生き方には2つの基本的な動機があり、ひとつは否定的な動機、もうひとつは肯定的な動機です。まず、13-15節は、誘惑に屈することは罪を生み、罪が完全に熟すると死をもたらすと教えています。霊的な死、肉体的な死だけでなく、永遠の死、つまり創造主から永遠に引き離されます。私はそのようなことが起こらないようにしたいです。第二に、17-18節は、神に従う積極的な動機を与えています：神は良い賜物をくださる方です。神は私たちを愛しておられ、被造物に良い賜物を与えたいと願っておられます。

ヤコブ 1:17-18 を読みましょう – 「¹⁷すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。¹⁸父はみこころのままに、真理のことばをもって私たちをお生みになりました。私たちを、いわば被造物の初穂にするためなのです。」

与えられたすべての善きもの.....そしてすべての完全な賜物.....は、上から、天の父からもたらされます。

私は創世記 1 章の天地創造の物語を思い出します。

神が人間をお造りになるそのすぐ後、神は創世記 1 : 28 - 19 で、彼らのこのように言われます：「²⁸神はまた、彼らを祝福し、このように神は彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。」²⁹ついで神は仰せられた。「見よ。わたしは、全地の上であって、種を持つすべての草と、種を持って実を結ぶすべての木をあなたがたに与えた。それがあなたがたの食物となる。」

神はまず人類に、地を増やし、満たし、その資源の管理者となり、すべての動物を支配する責任を与えました。次に神は、あらゆる植物とあらゆる果実を与え、それらが彼らの食料となるようにと言われました。神は彼らに食物を供給される。

31a 節には、「そのようにして神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ。それは非常によかった。」とあります。

天地創造の物語のいくつかの箇所、神が造られたものは"良かった"と書かれていますが、物語の最後に、神が造られたものはすべて "非常に良かった"と書かれています。これは神が造られ、人類に与えられた良い地球です。

人類が罪に堕ちたにもかかわらず、神は私たちすべてに良いものを与えてくださいます。私たち人間すべてに。私は、マタイによる福音書 5 章 45 節でイエスが述べた言葉が面白いと思います。J.B.フィリップス訳のその節の後半を読んでみましょう。 - イエスは天におられる私たちの父についてこう言っておられる。「天の父は、地上の善人にも悪人にも太陽を昇らせ…正直な人にも不誠実な人にも雨を降らせる。」天の父は、地上の善人にも悪人にも太陽を昇らせる……正直者にも不正直者にも雨を降らせます。すべての人間は、善人であろうと悪人であろうと、地上での生活のために神の恵みを経験します。このことは、私たち一人ひとりを創造主に感謝させるはずだ。そして、神が私たちの中の善人も悪人も愛しておられるなら、私たちも同じようにすべきです。それが、先に読んだ 44 節は、私たちがすべき事です。

[説教では読みません: マタイ 5:44-45 - 「⁴⁴しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。⁴⁵それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。]

ヤコブ 1:17 節に戻しましょう - 「¹⁷すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。」すべての良いものは、上におられる私たちの父から来るのです。この"来る"という動詞が現在進行形であることに注目してほしいです。つまり、これらの賜物は継続的に来ます。そして、神が 光の父 と呼ばれていることに注目してください。光の父は、変動や影の移動がないのです。地球が自転するとき、私たちは影を見、太陽が昇ったり沈んだりするのを見ます。そうして光が変化するのが分かります。しかし、神は変わりません。少しも変わりません。神には変化がなく、光が移り変わることもないのです。これが 神の不変性 と呼ばれる教義です。神は変化しません。神は変わることができません。私たちへの愛も、約束も変わりません。神は忠実であり続けます。すべての良い賜物は神から来るものであり、神は私たちを見守り、私たちを養い続けてくださるという確信を持つことができます。

18 節をもう一度読みましょう - 「¹⁸父はみこころのままに、真理のことばをもって私たちをお生みになりました。私たちを、いわば被造物の初穂にするためなのです。」

この一文に、救いのプロセスのいくつかの重要な側面が示されています。第一に、それは 神の意志による ものです。神は救いの創造者です - 失われた罪人を探し求められる方です。アダムとエバが禁断の実を食べて神から隠れようとしたとき、神はアダムとエバを探し出されました。そして、御子イエス・キリストを世の救い主として遣わされたのです。

第一ヨハネ 4:14にあるように、「¹⁴私たちは、御父が御子を世の救い主として遣わされたのを見て、今そのあかしをしています。」そして、ヨハネの福音書 4 章 42 節にあるように、「そして彼らはその女に言った。「もう私たちは、あなたが話したことによって信じているのではありません。自分で聞いて、この方がほんとうに世の救い主だと知っているのです。」ヨハネの福音書 1:13「この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」

ヤコブ 1:18 が語る第二のことは、神は真理の言葉によって私たちが生んでくださったということです。私たちが生まれ、新しく生まれ、救われるのは、神の言葉によるのである。1 ペテロの手紙 1：13 – 「¹³ですから、あなたがたは、心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストの現われのときあなたがたにもたらされる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。」私たちは、神の言葉を通して再び生まれます。先祖代々受け継がれた来たものを通してではないのです。

使徒パウロは、ローマ人への手紙 10 章 17 節でこう書いています – 「信仰は聞く事から始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。」同じ章の 8 - 10 節では、こう言っています。 – 「⁸では、どう言っていますか。「みことばはあなたの近くにある。あなたの口にあり、あなたの心にある。」これは私たちの宣べ伝えている信仰のことばのことです。⁹なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。¹⁰人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」私たちが救いの道を学ぶのは、書かれた聖書を読むだけでなく、キリスト教の使者たちの説教を通してです。そして、私たちの告白と信仰によって、救いは達成されます。

私たちの新生をもたらすのは神の言葉だけでなく、神の御霊と結びついて起こります。神の言葉と神の霊です。この点は、私の好きな聖書注解者の一人であるウォーレン・ウィアーズベがヤコブ書の注解で述べています。

ヨハネの福音書 3 章 3 節で、イエスはニコデモに、人が神の国を見るためには「新しく生まれなければならない」と言われ、6 節では、イエスは私たちが「御霊によって生まれなければならない」と言われた。

3 節 – 「イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」」

6-8 節 – 「⁶肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。⁷あなたがたは新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思ってはなりません。⁸風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」

ヤコブ 1:18 で私が強調したい第三のことは、神が私たちが救ってくださるのは、「被造物の中で初穂のようなものとなるため」だということです。「初穂」とは、旧約聖書に

よく出てくるように、農作物の収穫の中で最も特別なものです。ヤコブは、主にユダヤ人のクリスチャンに向けて、主にユダヤ人の考え方で書いており、彼らは「初穂」のモチーフをよく知っているはずです。

箴言 3:9 – 「あなたの財産とすべての収穫の初物で、主をあがめよ。」

レビ記 23:10 – 「イスラエル人に告げて言え。わたしがあなたがたに与えようとしている地に、あなたがたがはいり、収穫を刈り入れるときは、収穫の初穂の束を祭司のところに持って来る。」 “

黙示録 14 : 4 の最後の所で、神に贖われた 144,000 人について：「彼らは、神および小羊にささげられる初穂として、人々の中から贖われたのである。」

ヤコブ 1:18 は、私たちは「神の被造物の中で初穂のようなもの」だと言っています。神の被造物の中で神と縁組した者は、神にとって特別な存在です。

今日のメッセージの次のパートに進みましょう。

パート 2: QSS: Quick-Slow-Slow (ヤコブ 1:19-20).

ヤコブ 1:19-20 を読みましょう – 「¹⁹愛する兄弟たち。あなたがたはそのことを知っているのです。しかし、だれでも、聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい。²⁰人の怒りは、神の義を実現するものではありません。」

何年も前に、ある説教者がこの 19 節についてコメントするのを聞いたことがあります。

彼は聴衆に「QSS」（Quick-Slow-Slow）の原則について語りました。「Slow」は

「Quick」の 2 倍の頻度で言及されていることに注目してください。私たちは物事に素早く反応することが多すぎますが、反応する前にゆっくりと自分の気持ちを見極めるべきです。これが QSS の原則だと、何年も前に聞いた説教者は言っていました。19 節にこう書かれています：「聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい。」語るに遅くあれ。…何かに対して怒るに遅くあれ。

私たちは何を素早くすべきでしょうか？聞くことを素早くすべきです。相手の言っていること、やっていることに耳を傾け、配慮することを素早くすべきです。あまりに多くの場合、人は言われたことを早合点し、誤解したり、不適切な反応をしたりすることがあります。私たちは一歩立ち止まって、その人が実際に何を言おうとしているのか……その人が表現したいことは何なのかを考えるのがよいのです。このアドバイスに従えば、人と人との不幸な交流の多くは避けられると思います。

20 節にこうある。「人の怒りは、神の義を実現するものではありません。」私たちはしばしば、何かに対してすぐに腹を立てることがありますが、それはしばしば利己的な理由で腹を立てることがあります…利己的な動機です。それは神の義とは一致しません。

クリスチャンの心理学者が書いた『*Make Anger Your Ally*（怒りを味方につける）』というタイトルの本を読んだことがあります。その本が似たような本で、私は 2 種類の怒りについて学びました。怒りのひとつは、自分自身やあなたの怒りをこうむった人々にダメージ

を与える、爆発的な怒りです。新約聖書が怒りについて述べているとき、それはたいてい爆発的な怒りを指しており、その種の怒りは確かに避けなければなりません。しかし、怒りには別の種類もあります。たとえば、神の名誉が軽んじられたときや、人々の間で不公平が起こっているのを見たときに、正しく怒る、正しい怒りです。そのような場合は、建設的な行動への動機付けとなるような、ゆっくりとした怒りが適切でしょう。

人の話に素早く耳を傾け.....返す言葉をゆっくりと口にし.....怒るのも遅く、もし怒ったとしても、破壊的な爆発的な怒りではなく、建設的な行動へと向かわせる感情であるように。

今日のメッセージの次のパートに移りましょう。

パート 3: 謙遜である時、御言葉を受け取る (ヤコブ 1:21).

ヤコブ 1:21 – 「ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。」

13-15 節で誘惑と罪のプロセスを述べ、19-20 節で怒りについて述べた後、ヤコブは私たちの人生に残っているかもしれない他の罪を脇に置くようにと勧めています。彼は、あらゆる不潔なものを捨てなさい.....私たちの心や行動のどこかにまだ潜んでいる邪悪な考えや行動を捨てなさい、と告げています。

この聖句を読むたびに、私は心を打たれます。

エペソ 5:1-5 (特に 3 節と 4 節) – 「¹ですから、愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい。²また、愛のうちに歩みなさい。キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげになりました。³あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、不品行も、どんな汚れも、またむさぼりも、口にすることさえいけません。⁴また、みだらなことや、愚かな話や、下品な冗談を避けなさい。そのようなことは良くないことです。むしろ、感謝しなさい。⁵あなたがたがよく見て知っているとおり、不品行な者や、汚れた者や、むさぼる者——これが偶像礼拝者です。——こういう人はだれも、キリストと神との御国を相続することができません。」

私たちクリスチャンは神に倣う者として召されています。私たちは神のご性質を反映すべきなのです。そのための動機は、私たちのためにご自身を犠牲にしてくださったキリストの愛です。しかし、3 節と 4 節が指摘するように、もしあなたの生活に不道德や不純、食欲があれば、また、あなたの話し方に不潔さや愚かな話し方があれば、神に倣う者となることはできません。ここで言う「不品行」とは、ギリシャ語のポルネイア *porneia* のことで、姦淫、姦淫、同性愛、そして結婚以外のそのような性的行為などを意味します。そのような行為は神の設計から外れており、クリスチャンの生活の一部であってはなりません。私はこれらの罪に手を染めたことはないですが、2 番目の言葉、「不純」とは何を指

しているのかと、いぶかしく思います。若い頃、この箇所を何度か読んだとき、本当に衝撃を受けた言葉です。「不純」。ギリシャ語のアカタルシア *akatharsia* です。性的な不道徳という意味もありますが、もっと広い意味で、私たちの内面においても、行動においても、あらゆる性的な不純さ、汚れ、不潔を意味します。マタイの福音書 23 章 27 節で、イエスが律法学者やパリサイ派の人々を、死んだ骨と「すべての汚れたもの」でいっぱい
の白く塗られた墓に例えているのも、この同じ言葉です。これは私たちの内面、心の問題です。あなたの心に汚れたものはありますか？不道徳な渴望はありませんか？清い生き方にそぐわない行いはないでしょうか？この聖句に心を打たれたのは、自分の心といくつかの行動を調べたとき、自分が不浄の罪を犯していることに気づいたからです。

この箇所では取り上げられている罪はすべて、神の子であることと相容れないものです。私たちはこれらのものを捨て、捨て、悔い改め、捨てなければなりません。そうすれば、ヤコブが私たちに勧めている次のステップのために、清い心を準備することができます。

ヤコブ 1:21 をもう一度読みましょう – 「ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。」

へりくだって、あなたがたの魂を救うことのできる、植えつけられたみことばを受け取りなさい。

謙虚に。この恩恵を最大限に生かすためには、へりくだらなければならない。へりくだって.....植えつけられたみことばを受け取りなさい。神の言葉.....真理の言葉.....救う言葉。自分の心をきれいにしたら、神の言葉を受け取り、それがあなたの人生を内側から、つまりあなたの心を変え、あなたの行動を変えるようにすることができます。これがクリスチャンの弟子としての目標です：私たちの霊的变化によって、私たちは、私たちの主の御人格を反映します。

続けましょう。

パート 4: 御言葉を実行する者となる (ヤコブ 1:22-25).

ヤコブ 1:22-25 を読みましょう – 「²² また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。²³ みことばを聞いても行なわない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で見る人のようです。²⁴ 自分をながめてから立ち去ると、すぐにそれがどのようなであったかを忘れてしまいます。²⁵ ところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行ないによって祝福されます。」

これは、私たち全員にとって決定的に重要な戒めです。私たち福音主義クリスチャンは、聖句を知り、それに従って生き、正しい教義を持つことに高い価値を置いています。しか

し、私たちの理想を下回ることはあまりにも簡単で、私たちがまだ持っている弱さのために、自己満足や怠惰に陥ることさえあります。あるいは、あまりにも不快なことを耳にしたとき、時には不従順になることさえあります。教会に行って素晴らしい説教を聞き、その奨励に同意しても、その教えを実際に実践できないことがよくあります。忠実に聖書を読んでも、本を閉じた後は読んだことを忘れてしまい、人生に何の変化もないことがよくあります。それではいけません。

この箇所は、説教を熱心に聴き、聖書を熱心に読むように.....そして、その教訓を必ず実践するようにと諭しています。私たちはみことばを実行する者にならなければいけません。ただみことばを聞くだけでは意味がない。事実、それは、役に立たない以上に悪いことです。ただみことばを聞くだけというのは、何か生産的で有益なことをしていると自分を欺いているようなものだからです。

これは、ある有名なラジオ説教者の言葉を思い出させます。1980年代、私はクリスチャン・ラジオをよく聴いていましたが、私のお気に入りの説教者の一人は、J・バーノン・マッギーという原理主義者の牧師で、1940年代のキリスト教放送の先駆者の一人でした。彼は引退後もラジオに出演していて、私は聖書の全巻を通して説教する彼の番組を聴くのが大好きでした。ある日、彼は私に大きな印象を与える発言をしました。「モダニズム」と呼ばれるもので、それは基本的な聖書の教義を現代のキリスト教徒が否定する、つまり今日私たちが呼んでいるところの「自由主義運動」ですが、それに対して、キリスト教信仰を守ってきたアメリカの原理主義教会の状況について話していました。彼をはじめとする保守派の牧師たちは、熱心な信徒を抱える大きな教会で説教をしていました。しかし、やがて彼は、教会の中で何かが健全でないことに気づきました。私が本当にショックを受けた彼の発言を紹介します。私が覚えている限り、それはこのようです。彼は次のようなことを言いました（これは言い換えであり、正確な言葉ではありません）：

「私たち原理主義者は正しい教義を持っていた.....教会は満員で、立派な説教者たちもいた.....人々は私たちの説教をメモし、ノートを埋めていた。しかし、モダニストには勝てなかった。私たちには弱点があり、それが何なのかよくわかった。多くの人々の生活に倫理観が欠如していたのだ。私たちが教えていることを実践していなかったのだ。彼らの多くは世俗的なままだった。彼らのライフスタイルは、ノンクリスチャンのライフスタイルと区別がつかなかった。彼らの多くは不敬虔な習慣を持っていた。私たちが教えたキリスト教の基準に従って生活していない人たちがあまりにも多かったのだ」。

ワオ。マクギー博士の言葉は本当に衝撃的でした。しかし、そう、私はすでにこれらのことのいくつかを観察し始めていました。私は大学時代、いくつかの良いクリスチャン・グループに参加し、良い福音派の教会にも出席していましたが、霊的な生活を成長させたいという願望よりも、習慣的に（そして社交的な願望から）教会に出席している数多くの教会信者に気づいていました。クリスチャンであると自称する多くの人々の生活に倫理観が

深く欠如しているという彼の観察は、私にとって衝撃的であり、私は彼が嘆いていたような生ぬるい、あるいは名ばかりのクリスチャンには決してならないと決心したのです。

私たちは神の御言葉を読み、優れたクリスチャンの本を読み、福音派の説教者の説教を聴く必要があります.....そして、読んだり聴いたりしたものから挑戦を受けることに常に心を開き、自分の生活に必要な変更を加えることを習慣づける必要があります。私たちはみことばを単に聞く者ではなく、実行する者にならなければならない。説教を聞いたり、聖書を読んだりするときには、神が私たちに望んでおられるような生き方をするために、私たちの生活に変えるべき点がないかどうか、常に自分自身を吟味する姿勢を持つべきである。

今日は「聞くだけの者ではなく、神の御言葉を行う者になりなさい」というタイトルでお話ししてきました。神に愛されているクリスチャンたちは、神が自分にどれ程のことをしてくださったのかを知っています。それで、愛する故に神の言葉に従いたいと願う者です。しかしながら、自分の力では、神の言葉を実践することが難しい時があることも知っています。それで、日々の生活のために、聖霊に満たされ、神の力を求め続けなければなりません。

時として失敗することもあります。愛する神のもとに帰ることを知っています。失敗を恐れず、絶えず神の御顔を見あげる者でありますように。

1 ヨハネ 1:9 – 「⁹もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」

今日のメッセージの最後の部分に行きましょう。

パート 5: 無価値な宗教と純粋な宗教 (ヤコブ 1:26-27).

ヤコブ 1:26-27 を読みましょう – 「²⁶自分は宗教に熱心であると思っても、自分の舌にくっつわをかけず、自分の心を欺いているなら、そのような人の宗教はむなしいものです。

²⁷父なる神の御前できよく汚れのない宗教は、孤児や、やもめたちが困っているときに世話をし、この世から自分をきよく守ることです。」

26節は、私たちが自分自身を欺くかもしれないことをさらに教えています：それは、彼の口から出てくることについて気にしないクリスチャンです。クリスチャンは、自分のことを宗教的な良いクリスチャンだと思っているかもしれませんが、もし彼の言葉が人を建て上げるのではなく、人を引き裂くなら、それは価値のない宗教です。私たちが無分別に話すことができる色々なやり方があります。私たちは、口にする言葉に本当に注意しなければならなりません。

エペソ 4:29 – 「²⁹悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。」教会での人間関係はこうあるべきです：互いに励まし合う、教化するような言葉を与え合うことです。

エペソ 4:31-32 – 「³¹無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしりなどを、いっさいの悪意とともに、みな捨て去りなさい。³²お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」

ヤコブ 1:27 は、私が最も好きな聖句のひとつであり、私のクリスチャン生活の拠り所のひとつです。この聖句は、真の宗教がどのようなものであるべきかを教えています。"私たちの神と父との目にかなう清く汚れない宗教とは、すなわち、孤児や寡婦の苦しみを見舞い、世に染まらないでいることです。

あなたのクリスチャンとしての信仰は、ライフスタイルの中でどのように発揮されていますか？26 節では、緩んだ舌がいかに破壊的で、無価値な宗教につながるかを見ました。27 節では、純粹で汚れない宗教とはどのようなものかを見ます。「孤児ややもめの苦しみを見舞い」とあるのは、社会で最も弱い立場にある人々を大切にしなければならないという意味です。私は実際に孤児や寡婦を訪問することはないのですが、さまざまな種類の恵まれない人々のニーズを満たそうとするキリスト教団体に寄付をすることはあります。

1 ヨハネ 3:17-18 – 「¹⁷世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。¹⁸子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そうではありませんか。」

困っている人を見たときにどのように振る舞うかによって、あなたがどのような心を持ち、どのような信仰を持っているかがわかります。私たちはここで、口先だけで親切を公言するのではなく、実際に実際的な必要を満たす助けとなる行いをもって行動するよう勧められています。

ガラテヤ人への手紙 2 章で読んだ話が印象的です。そこには、ユダヤ人と異邦人、割礼を受けている人と割礼を受けていない人への伝道について、使徒ペテロとパウロが話し合ったことが書かれています。

パウロは、ガラテヤ人への手紙にこの様に書いています。2:7 と 9-10 – 「⁷それどころか、ペテロが割礼を受けた者への福音をゆだねられているように、私が割礼を受けない者への福音をゆだねられていることを理解してくれました。」… 「⁹そして、私に与えられたこの恵みを認め、柱として重んじられているヤコブとケパとヨハネが、私とバルナバに、交わりのしるしとして右手を差し伸べました。それは、私たちが異邦人のところへ行き、彼らが割礼を受けた人々のところへ行くためです。¹⁰ただ私たちが貧しい人たちをいつも顧みるようにとのことでしたが、そのことなら私も大いに努めて来たところです。」

偉大な使徒であるペテロとパウロが、伝道の重要性を認識しながらも、貧しい人々への伝道もまた、おろそかにしてはならないものだと考えていたことが印象的です。若い頃、私が属していた福音派の教会では、貧しい人々への伝道が軽視されているように感じました。それはリベラルな人々が行うことであり、教会は魂を救う働きをしなければならないと言われたからです。しかし、聖書を繰り返し読むうちに、神は貧しい人々や恵まれない人々をととても大切に思っておられ、私たちの心やライフスタイルはそれを反映したものであるべきだと分かりました。ヤコブ 1:27 をはじめとする数多くの聖句が、そのことを教えてくれています。

旧約聖書のいくつかの箇所を見てみましょう。預言者たちは、当時の人々が二つの大きな罪を犯していたことを批判しました。一つは、真の神への礼拝を捨てていたこと、もう一つは、社会の不正を無視していたことです。

ミカ 6:8 「8 主はあなたに告げられた。人よ。何が良いことなのか。主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行ない、誠実を愛し、へりくだってあなたの神とともに歩むことではないか。」私の目には、ヤコブ 1:27 と重なります。

また、イザヤ 1:16-17 – 「¹⁶ 洗え。身をきよめよ。わたしの前で、あなたがたの悪を取り除け。悪事を働くのをやめよ。¹⁷ 善をなすことを習い、公正を求め、しいたげる者を正し、みなしごのために正しいさばきをなし、やもめのために弁護せよ。」

身を洗い、身を清めなさい。

これはヤコブ 1:27 の最後のフレーズにつながっています。純粹で汚れのない宗教に従いたいと願うなら、自分を世に汚されないようにしなさい。今日、ヤコブ 1:22 とエペソ 5:3-4 - クリスマンは神に倣う者であるべきであり、神のご性質を反映した神を敬う生き方をすべきである - についてコメントしたときに述べたポイントに戻ります。

この世に染まらないようにしなさい。